

# 人権と共生社会

## 1 単元のねらい

わが国におけるさまざまな人権侵害の解決を憲法の「個人の尊厳と平等」の原則や保障される人権の内容とかわらせて考え、国民一人一人が責任と義務を果たし、人間を尊重する努力を続けていく社会をつくりあげることの大切さに気付くことができる。

## 2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<p>日本国憲法の原理である「基本的人権の尊重」について、日本国憲法の規定をもとに理解している。</p> <p>人権が身近にあることを人権の歴史、日本国憲法の特徴や基本原理、基本的人権の内容について、具体的な事例を通して理解している。</p>	<p>「日本国憲法ではなぜ人権を保障することが大切なのか。」を日本国憲法や具体的な事例を通して考え、対立と合意、効率と公正や民主主義、自由・権利と責任・義務、平等の精神などの様々な視点や立場に着目し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>基本的人権を中心とした人間の尊重について、日本国憲法をはじめとした法の下で差別や偏見といった人権侵害の解決の実現を視野に資料を基に意欲的に追究している。</p>

●学習改善につながる評価 ○評定に用いる評価

評価/時数	1	2	3	4	5	6・7
知識・技能	●		●	●		○
思考・判断・表現					○	○
主体的に学習に取り組む態度		○				

### 3 単元構造図（全8時間）☆獲得する認識

単元名  
人権と共生社会

単元学習前の生徒の意識

日本国憲法は、立憲主義に基づいており、日本は法治国家である。憲法で基本原理とされる基本的人権の尊重について、日本国憲法の規定や具体的な事例を通して追究していこう。

第1時 平等権—共生社会を目指して①【●知識・技能】

日本にはどのような差別があり、差別をなくすためにはどのような努力がなされてきたのだろう。

☆平等権 ☆アイヌ民族支援法

日本にどのような差別があり、その差別をなくすために努力してきたことがわかった。また、私たちが差別にどのように向き合うべきかを考えていかなければならない。

日本国憲法では、なぜ人権を保障することが大切なのだろう

第2時 平等権—共生社会を目指して②【○主体的に学習に取り組む態度】

共生社会を築いていくために、私たちにはどのような取り組みや努力が求められているのだろう。

☆男女雇用機会均等法 ☆男女共同参画社会基本法 ☆インクルージョン ☆バリアフリー  
☆障害者基本法

共生社会を築いていくために、インクルージョンの実現が大切なことがわかった。さらに、どのような人々でも自分らしく生きる社会にするには、私たち一人一人が個人を尊重し、偏見を持たないことが大切である。

第3時 自由権—自由に生きる権利【●知識・技能】

自由権とはどのような権利であり、日本国憲法でどのように保障されているのだろう。

☆自由権(精神の自由、身体の自由、経済活動の自由)

日本国憲法が定める自由権には、精神、身体、経済活動の自由の3つがあることがわかった。これらの自由権が保障されることで私たちは自由に物事を考え、行動できており、個人として尊重されていることがわかった。

第4時 社会権—豊かに生きる権利【●知識・技能】

社会権とはどのような権利であり、日本国憲法でどのように保障されているのだろう。

☆社会権 ☆生存権 ☆生活保護法 ☆教育を受ける権利 ☆教育基本法 ☆勤労の権利 ☆労働基本権  
☆団結権 ☆団体交渉権 ☆団体行動権

経済活動の自由によって貧富の差が拡大したことから、社会権が保障された。社会権は日本国憲法で保障されており、私たちの生活を支えていることがわかった。

第5時 人権を確実に保障するための権利【○思考・判断・表現】

私たちの人権保障を確かなものにするために、日本国憲法ではどのような権利が保障されているのだろう。

☆参政権 ☆選挙権 ☆被選挙権 ☆裁判を受ける権利

人権保障を確かなものにするために参政権と請求権がある。なぜなら、参政権によって国民が政治に参加し、個人が尊重される政治が実現でき、できないときは請求権を行使することで権利を守ることができることがわかった。

第6時 「公共の福祉」と国民の義務【○知識・理解 ●思考・判断・表現】

私たちは憲法上、どのような責任と義務を負っているのだろう。

☆公共の福祉 ☆普通教育を受けさせる義務 ☆勤労の義務 ☆納税の義務

私たちの社会への責任として「公共の福祉」のために憲法が保障する自由及び権利を利用することが挙げられる。これは、私たちがともに社会を築いていくためにとても大切なものであり、国民の義務と同様に国を支えるものだと考えられる。

単元学習後の生徒の意識

だれもが自分らしく生きることができる社会を築いていくためには個人を尊重することが重要であり、日本国憲法で保障されている権利を私たち一人一人が大切にしなければならない。

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料及び指導・援助
1 平等権—共生社会を目指して①	<p>さまざまな差別事件の資料から、平等権について考える活動を通して、差別をなくすために重要なことを「個人の尊重」の観点から説明することができる。</p> <p>☆平等権 ☆アイヌ民族支援法</p>	<p>1 さまざまな差別があることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部落差別、アイヌ民族への差別、在日韓国人や在日朝鮮人への差別</li> <li>・差別があることを認識させ、どうすれば差別をなくすことができるのかを予想し、課題化する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本にはどのような差別があり、差別をなくすためにはどのような努力がなされてきたのだろうか。</p> </div> <p>2 差別をなくすための努力を理解し、差別をなくすために自分達ができることを考える。</p> <p>3 前単元の学習である「基本的人権の尊重」とかかわらせて、単元を貫く課題を設定する。</p>	<p>差別をなくすためにどのような取り組みや努力がなされているのかを理解している。</p> <p>(知識・技能)</p>	<p>◇部落差別 ◇アイヌ民族への差別 ◇在日韓国・朝鮮人への差別</p> <p>日本にある差別は人権侵害であることや、差別をなくすために努力をしていることに気づくことで、人権の大切さを理解し、単元を貫く課題を設定できるようにする。</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日本国憲法では、なぜ人権を保障することが大切なのだろう。</p> </div>		
		<p>4 本時のまとめをする。</p>		
		<p>前回の授業で習った日本国憲法第14条では、「…差別してはいけない。」と記されていたが、日本では様々な差別があることがわかった。そして、その差別は憲法に反する行為だと考える。そのため、差別をなくすために努力をしていかなければならないし、人権の保障の大切さを私たちが考える必要があると思う。</p>		
2 平等権—共生社会を目指して②	<p>共生社会を目指すためにはどうすべきかを仲間と話し合う活動を通して、自分達が差別や偏見にしっかりと向き合うことが大切であることに気付くことができる。</p> <p>☆男女雇用機会均等法 ☆男女共同参画社会基本法 ☆インクルージョン ☆バリアフリー ☆障害者基本法</p>	<p>1 女性の働いている割合の資料から、日本と他国とのちがいを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本だけ、M字のように折れ曲がっている。</li> <li>・グラフをみて気づいたことを書き出し、課題化する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>共生社会を築いていくために、私たちにはどのような取り組みや努力が求められているのだろうか。</p> </div> <p>2 資料から事実を読み取り、考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ仕事をしていても、男女で大きな賃金の格差がある</li> <li>・インクルージョンの実現には私たちが気を付けることがあるのだろうか。</li> </ul> <p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>平等権に関する資料から、自分の考えをもち、仲間と交流して深める活動を通して、共生社会を目指して自分の考えを持っている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>◇女性の年齢別の働いている割合 ◇男女の年齢別賃金</p> <p>◇みんなでチャレンジ「インクルージョンについて考えよう」</p>
<p>共生社会を目指すためにはインクルージョンの実現が必要だと考える。そのためには性の多様性や障がいのある人への理解などが求められていることがわかった。私自身、障がいのある人は助けないといけないと考えているが、この考えは偏見だということに気付いた。今後は自分と他者の違いを認め、支え合っていきたい。</p>				

<p>3 自由権—自由に生きる権利</p>	<p>日本国憲法が定める自由権について、具体的な事例を通して理解し、自由権が保障される理由を「個人の尊重」の観点から考えることができる。</p> <p>☆自由権 (精神の自由) (身体の自由) (経済活動の自由)</p>	<p>1 自由権が侵害されている例を通して、 ・自由とは何かを考え、書き出してから課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自由権とはどのような権利であり、日本国憲法でどのように保障されているのだろうか。</p> </div> <p>2 3つの自由権(精神, 身体, 経済活動の自由)についてまとめる。</p> <p>3 「私の選ぶ自由は」を活用し、自由に考え、意見する。</p> <p>4 自由権の保障の重要さを「個人の尊重」の観点から考える。 ・私たちが個人として尊重されるには自由に考えたり、発言したり、自由に行動できることが重要だと考える。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>自由権に関する資料から、日本国憲法に定められている自由権の考え方を理解している。 (知識・技能)</p>	<p>◇みんなでチャレンジ「私の選ぶ自由は」</p> <p>自由についての考え方は個人によって異なることに気付く。</p>
		<p>日本国憲法が定める自由権には、精神、身体、経済活動の自由の3つがある。これらの自由が日本国憲法で保障されていることによって、私たちが自由に物事を考えて判断し、行動できることがわかった。</p>		
<p>4 社会権—豊かに生きる権利</p>	<p>社会権に関する資料を読み取る活動を通して、最低限度の生活や健康で文化的な生活を送ることの大切さに気付き、自由権との関係を考えることができる。</p> <p>☆社会権 ☆生存権 ☆生活保護法 ☆教育を受ける権利 ☆教育基本法 ☆労働の権利 ☆労働基本権 (団結権 団体交渉権 団体行動権)</p>	<p>1 日本国憲法第25条から憲法で保障されている生存権について知る。</p> <p>2 生活保護の制度の目的を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>社会権とはどのような権利であり、日本国憲法でどのように保障されているのだろうか。</p> </div> <p>3 「生存権について考えよう」を活用し、最低限度の生活に関して自由に意見する。</p> <p>4 社会権と自由権の関係を考える。</p> <p>5 他の主な社会権(教育を受ける権利・勤労の権利・労働基本権)についてまとめる。</p> <p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>社会権に関する資料を読み取り、社会権にはどのような種類があるかを理解し、社会権が保障された理由を自由権との関係から説明している。 (知識・技能)</p>	<p>◇生活保護費の推移と割合 ◇みんなでチャレンジ「生存権について考えよう」 ◇働き方改革</p> <p>社会権に関わる制度や改革に関する資料を読み取り、それが法に基づいたものであると気付く。</p>
		<p>日本国憲法第25条で「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障している。このような社会権が誕生した背景には、経済活動の自由が強調された近代の歴史があると考えられる。そして、日本には社会権を保障するために様々な制度があり、現在でも社会権の保障が達成されるように改革を進めていることがわかった。</p>		

<p>5</p> <p>人権を確実に保障するための権利</p>	<p>私たちの人権保障を確かなものにするために、参政権や請求権が日本国憲法で保障されている理由を考え、表現することができる。</p> <p>☆参政権 ☆選挙権 ☆被選挙権 ☆裁判を受ける権利</p>	<p>1 前時までの社会権を振り返り、人権の保障の大切さを強調する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を確かなものにするためにはどうすべきかを予想し、課題化する。</li> </ul> <p>私たちの人権保障を確かなものにするために、日本国憲法ではどのような権利が保障されているのだろう。</p> <p>2 参政権と請求権について知り、人権の保障にとって重要なことを考える。</p> <p>3 公民にアクセスを活用し、裁判を受ける権利がなかったらどうなるかを考える。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>参政権や請求権、裁判を受ける権利が人権の保障にとって重要なものであることを理解し、「個人の尊重」の観点からその重要性を考え、説明している。</p> <p>(思考・判断・表現)</p>	<p>◇海外に設置された投票所 ◇公民にアクセス「裁判を受ける権利—隣人訴訟—」 ◇参政権と請求権</p>
<p>私たちの人権保障を確実にするために権利があることを知った。参政権では国民が政治に参加することでより個人の尊重する政治ができると考えられる。さらに、請求権があることで、投票以外にも国民の意見を政治に反映することができる。</p>				
<p>6</p> <p>公共の福祉と国民の義務</p> <p>7</p> <p>単元のまとめ</p>	<p>人権と公共の福祉の関係を考え、個人の自由や権利は制限されていることを理解するとともに、私たちには憲法上で責任と義務があることを説明することができる。</p> <p>☆公共の福祉 ☆普通教育を受けさせる義務 ☆勤労の義務 ☆納税の義務</p>	<p>1 人権と人権の対立の資料から人権の対立の解消方法を予想し、課題化する。</p> <p>私たちは憲法上、どのような責任と義務を負っているのだろう。</p> <p>2 資料から分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法の条文に書かれている「公共の福祉」のように、他人の人権を侵害してはならないことや社会の共同生活のために制約を受けることがある。</li> </ul> <p>3 「公共の福祉」について考えようを活用し、個人の人権と「公共の福祉」の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共の福祉」を尊重することで、立ち退きは仕方ないことだと考える。しかし、公正の観点から立ち退く住民には補償の必要がある。</li> </ul> <p>4 国民の義務についてまとめる。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>個人の自由や人権が制限されていることや国民としての義務を資料から読み取り、理解している。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>個人の人権と「公共の福祉」の関係を考える活動を通して、双方を尊重することの大切さに気づき、公正の観点で説明している。</p> <p>(思考・判断・表現)</p>	<p>◇人権と人権の対立 ◇日本国憲法に定められた「公共の福祉」 ◇「公共の福祉」による人権の制限 ◇みんなでチャレンジ「公共の福祉」について考えよう</p> <p>身近な事例から公共の福祉のために人権が制限される出来事を考えさせる。</p>
<p>人権と人権が対立したときには「公共の福祉」を尊重することがわかった。しかし、個人の人権も尊重すべきであり、時には個人への補償の必要性があることも忘れてはいけない。そして、国民には普通教育を受けさせる義務や勤労の義務、納税の義務がある。私たちも社会への責任と国民の義務を果たせるように、「人権と共生社会」の学習で学んだことを大切にしていきたい。</p>				